

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	先端社会研究所
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 研究所での業務において求められる能力・業績の明確化	→ 所長・副所長・専任研究員・研究員の研究業績の公表(研究所ホームページ、研究所紀要における公表)と研究所での諸業務に対する運営委員会における評価。	B
2. 研究所が取り組む各種事業に照らした適合的な人材の配置	→ 研究所が取り組む各事業の人員体制に対する運営委員会における評価の実施。	B
3. 研究所が取り組む具体的な研究プログラム内容に照らしての研究員の採用	→ プログラム内容を明記したうえでの公募の実施ならびに選考過程の制度化・透明化。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

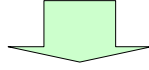
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目 11.0.2	(方針) 本研究所は、先端社会研究所規程第3条に規定する、①世界的研究拠点としての先端的社会調査研究、②社会調査に関するデータベースの構築、③大学と社会の間の双方向的な研究・情報交換の役割を担うソーシャル・サイエンス・ショップ、④若手研究者養成、の各事業の実施を通して、理念・目的の達成を目指しており、その方針に沿った構成員を配置し、運営体制を構築している。 (現状説明) 所長・副所長・研究員の研究業績の公表と、研究所での諸業務に対する評価、及び研究所が取り組む各事業に対する人員体制に関する評価を運営委員会において実施し、その評価に基づいた人員・運営体制を構築している。
☆	小項目 11.0.3	(現状説明) 所長は、本学専任教員の中から学長が選任し、任命する。副所長は、社会学部専任教員の中から所長が推薦し、学長が任命する。運営委員は、本学専任教員の中から学長が選任し、任命する。研究員は、運営委員会が学内外者の中から推薦し、所長が任命・委嘱する。
☆	小項目 11.0.4	(現状説明) 研究員やリサーチ・アシスタントにも研究会での発表や国際シンポジウム等への出席の機会を提供し、また、構成員が日常的にそれぞれの研究内容について意見交換を行うことで、FDを効果的に実施している。
☆	その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目 11.0.2	
小項目 11.0.3	
★ 小項目 11.0.4	
その他	



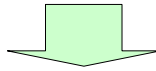
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目 11.0.2	
小項目 11.0.3	
★ 小項目 11.0.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目 11.0.2	
小項目 11.0.3	
★ 小項目 11.0.4	研究所構成員の選任にあたっては、研究所の理念・目的に鑑み、さらなる選考過程の制度化・透明化を推進する余地がある。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目 11.0.2	
小項目 11.0.3	
★ 小項目 11.0.4	2010年度より、「所長は、本学専任教員の中から運営委員会が推薦し、学長が選任のうえ任命する。副所長は、社会学部専任教員の中から所長が推薦し、学長が任命する。運営委員は、本学専任教員の中から運営委員会が推薦し、学長が選任のうえ、任命する。専任研究員は、学内外の研究者の中から運営委員会が推薦し、所長が任命する。研究員は、本学専任教員及び学外研究者の中から運営委員会が推薦し、所長が任命・委嘱する。」こととし、構成員の決定過程を明確にして研究所を全学的に開かれたものにするとともに、より研究所の理念・目的を実現・達成できる体制を構築する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

○①世界的研究拠点としての先端的社会調査研究、②社会調査に関するデータベースの構築、③大学と社会の間の双方向的な研究・情報交換の役割を担うソーシャル・サイエンス・ショップ、④若手研究者養成、を標榜する研究組織ですので、今よりも少し内外に開かれた研究所になることが期待されます。
○自己点検・改善のサイクルが機能していると判断されます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

☆ なし

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

11.0.0.S1	専任教員一人あたりの在籍学生数
11.0.0.S2	開設授業科目における専任比率
11.0.0.S3	専任教員の年齢別構成
11.0.0.S4	教員一人当たりの授業時間数
11.0.0.S5	本学出身の専任教員の構成比率
11.0.0.S6	海外の大学で学位を取得した専任教員の比率
11.0.0.S7	教員組織における実務家教員の占める割合(専門職大学院に限定)
11.0.0.S8	教員組織における女性教員の占める割合
11.0.0.S9	任期制教員(契約教員)の採用数
11.0.0.S10	実験実習指導補佐、教務補佐、授業補佐の採用数
11.0.0.S11	ティーチング・アシスタント(TA)の採用数
11.0.0.S12	契約助手の採用数
11.0.0.S13	実験助手の採用数
11.0.0.S14	リサーチ・アシスタント(RA)の採用数
11.0.0.S15	公募制による採用教員の数

<個別的な指標>
